

表1 移植したバイカモの残存率と成長

場 所	移植方法	6月23日(開始時)	8月31日	10月3日
低水護岸根固め部	鉢+網	9 (0)	9 (44.8)	9 (42.2)
河 床 部	網	9 (0)	2 (52.0)	0 (-)
河 床 部	竹	9 (30)	2 (93.5)	2 (55.5)
河 床 部	石	9 (30)	2 (107.5)	2 (60.0)

数字は残存株数, () は平均草長 (cm) を示す。

4. 今後の課題

十勝川水系音更川において、沈水植物バイカモの移植を試みたところ、自然河床部では大部分が流失したが、鉢植えにして低水護岸根固め部のコンクリートブロックの穴に入れたものは残存した。このことは、移植したバイカモの定着には河床の安定が必要であることを示していると考えられる。

ただし、自然河床部での移植法には護岸根固め部に用

いた鉢植え方式を用いていないことと、自然河床では深くて流速が速い場所にもあえて移植したのに対して、護岸根固め部ではなるべく安全そうな場所のみに移植しただけであることから、両者の比較から結論を出すのは適当ではない。自然河床部に移植したのもでも、流出しなかった株は十分に生長したことから、場所を選んで鉢植え移植すれば、護岸根固め部に劣らず定着する可能性がある。これについては、今後補足試験を行って確かめたい。

北海道にもコカナダモ侵入

滝田 謙 譲・角 野 康 郎

昨年7月、筆者のひとり滝田は北海道石狩川下流域の水生植物を調査中、コカナダモを採集した。今まで知られていたコカナダモの北限は秋田県であったが、ついに北海道にも侵入したことになる。生嶋(1980)は、各地の月平均気温の比較からアメリカ合衆国北東部原産のコカナダモは稚内まで生育可能であろうと指摘したが、今回の発見は、コカナダモが北海道でも十分に生育可能ということを示したことになる。今後の分布拡大が注目される。

なお、証拠標本(石狩郡石狩町茨戸真敷別川 海拔0 m 1996.7.8 滝田謙譲 6615)は神戸大学に保管されている。

引用文献

生嶋 功, 1980. コカナダモ・オオカナダモ—割り込みと割り込まれ. 川合禎次・他編『日本の淡水生物 侵略と攪乱の生態学』pp. 56-62, 東海大学出版会.

○岩熊敏夫編 "Mires of Japan: Ecosystems and Monitoring of Miyatoko, Akayachi and Kushiro Mires"

(国立環境研究所, 1996年, A 4 版カラー, 127p)

宮床湿原(福島県), 赤井谷地湿原(同)ならびに釧路湿原は、それぞれに異なった特性をもつ湿原であるが、その生態系の成り立ちを解明するために進められている総合調査の中間報告書である。湿原の環境や生物相のモニタリングがひとつの目標としてあるために、定点カメラからランドサットまで方法論をいろいろと検討しながら微地形や植物相の調査が進んでいる。この報告書では1991年から1995年までの調査結果がまとめられているが、国立環境研究所のような組織にはじめて可能になったような解析もあり、今後の調査の課題を知る上でも参考になろう。

なお、この報告書(無料)をご希望の方は

〒305 つくば市小野川16-2 国立環境研究所

生物圏環境部 生態機構研究室 野原精一

FAX 0298-50-2577 E-mail: snohara@nies.go.jp

に FAX または電子メールで御請求・問い合わせ下さい、とのことである。